

(様式6-1)事後評価シート

番号	10	事業名	交通安全施設等整備	市町村名	中野市	路河川名	(国)403号	箇所名(ふりがな)	東江部(ひがしえべ)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○地域からの要望経緯とその対応・通学路でありながら歩道が途切れているため、歩道が繋がるよう要望あり。</p> <p>・交差点が山の頂点となっている箇所があり、歩道と併せて整備するよう要望有り。</p> <p>○事業説明等の主な経緯</p> <p>・H15年度(砂山工区)説明会</p> <p>・H19年度(東江部工区)説明会</p> <p>○事業の進捗経緯</p> <p>・砂山工区(H15~23)</p> <p>・東江部工区(H19~H23)</p> <p>○計画内容の変更経緯</p> <p>・砂山工区は、交差点部の用地交渉が難航し、地権者と交渉して法線等を変更。</p> <p>・東江部工区は、「(仮称)山田家資料館」の保存活用に向け、法線等を変更。</p>					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
							・生活環境上は、歩道が整備されたことから整備前の危険な状況からは格段に良くなっている。		A	
事業目的	<p>○事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景</p> <p>・過去、部分的に歩道が整備されたが、課題の残る箇所が整備できなかった。</p> <p>・周囲に商業施設などができたことで、交通量が増えてきた。</p> <p>・周辺で宅地化が進み、通学する学童が増えたため、事故が多発した。</p> <p>○他事業・プロジェクトとの整合、関連</p> <p>・交差点改良に伴う、市道・用水路・信号の改良。</p> <p>・「山田家保存整備事業計画」</p>					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
							<p>・東江部地区で、道路側溝の清掃活動が行われており、地域住民が参加している。</p> <p>・歩行者の利用増や用水等の占用施設の歩道内への整備により、異常等が発見しやすい。</p>		A	
事業概要	当初工期	H15~H21	費用対効果(当初時)	—	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H15~H23	費用対効果(評価時)	—	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	歩道整備 L=1,100m W=2.5m			440,000	264,000			176,000	
	最終事業実績(主な工種)	歩道整備 L=1,100m W=2.5m			570,569	342,341			228,228	
④地域住民等の評価						地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価		
					<p>・広い歩道で段差もなく快適です。整備していただけて有り難いです。(東江部区長)</p> <p>・子供たちの通学も安全になり、車道も広くなったので車の運転もかなり安全になった。</p> <p>((仮称)山田家資料館)</p>		A			
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>・未整備区間において、沿線の土地利用上の課題で用地交渉が困難となったため。(砂山工区)</p> <p>・平成20年7月に、中野市の歴史的遺産である山田家の所有者より土地・家屋等が中野市に寄贈され、中野市では「山田家活用検討委員会」を設置し「(仮称)山田家資料館」として資産を利活用することとした。(山田家保存整備事業計画(案)) このため計画中だった当歩道設計についても施設利用者の安全性・利便性や施設保護を考慮するよう要望が出され、設計の修正や地元協議に時間を要することとなった。(東江部工区)</p>					⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)		評価	
							<p>・「山田家保存整備事業計画事業」と調整を図り整備しており、地域の歴史的遺産の保護・活用に貢献している。</p>		A	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>・当初計画では、建物等への影響や用地補償費コストの低減を目指していたが、実際の地権者の要望や施設配置に伴う要望などを検討した結果、用地補償費が増大することとなった。</p>					改善措置の必要性	なし			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)							評価		
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○交通の安全性向上(歩行者等の安全確保、災害に強い道路の確保)・・・事故件数、災害時通行止件数等</p> <p>・未整備区間の歩道が繋がることで、歩行者等が安全に通行できるようになった。</p> <p><事故件数> H17~H21 35件</p> <p>H22~H26 2件 (ー33件)</p> <p>・交差点や線形の改良、車道幅員の確保により安全が向上した。</p> <p><道路交通センサス> 自動車類交通量(平日12時間)</p> <p>R403号 草間 H11 10,653台</p> <p>H17 11,602台 (対H11 +1,562台)</p> <p>(江部) H22 11,481台 (対H11 +828台)</p>					今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	○反省を踏まえた改善点		A
								なし		
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>○生活環境・自然環境への影響</p> <p>・通学・通勤のほか、ショッピングや散歩など、生活環境において利便性が高まった。</p> <p><道路交通センサス> 歩行者・自転車交通量(平日12時間)</p> <p>歩行者(人)自転車(台) 合計</p> <p>R403号 吉田 H11 208 31 239</p> <p>H17 299 50 349 (対H11 +110台)</p> <p>H22 252 110 362 (対H11 +123台)</p>					部意見	○プロセス上の評価		A
					<p>・砂山工区については、長期間に渡り地権者の要望を調整しながら計画を見直し、また、工事についても現地で立ち合うなど、粘り強く対応をしている。</p> <p>○技術的な評価</p> <p>なし</p> <p>○予算規模上の評価</p> <p>なし</p> <p>○新規事業採択時における改善提案 など</p> <p>・地元要望の強い箇所であっても地権者の同意が得られないと事業が進まないため、極力情報を集めて対応するなど、新規事業に当たって注意する必要がある。</p>					
					行政改革課意見		安全な歩行者空間を確保することで、地域住民から高い評価を受け、事業効果は高い。			
							歩行者の安全確保と交通の円滑化が図られ、事業の目的を達成している。			